文化・芸術

「馬（ドンキホーテ）」

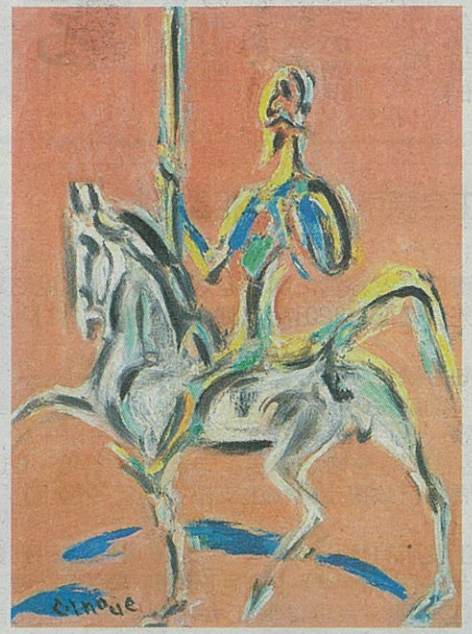
1977年、油彩、カンバス
45・5㌢×33・5㌢（糖業協会蔵）

井上長三郎（1906～95年）

「昭和」の時代、太平洋戦争の敗戦と戦後の混乱によって、画家たちは、特定の個人よりも、戦争という人間が引き起こした惨劇と戦中の不条理を告発する人間像を数多く描くようになりました。一方、松本竣介は1948年に36歳で夭折（ようせつ）しました。しかし竣介の画友であった麻生三郎、鶴岡政男、井上長三郎は、戦禍を生きぬいた人間の姿として、同時に戦後の社会の混乱を告発している作品を多く描きました。

なかでも井上は、社会問題、権力者たちをテーマに、するどい批評と風刺をこめた作品を描きました。この作品でも、もとより17世紀スペインのセルバンテスの小説「ドン・キホーテ」をモチーフにしたものですが、その騎士然としたこっけいな姿には、どこか欺瞞（ぎまん）と虚栄心をあざわらう現代にも通じる風刺が感じられます。

（田中）



〈名画の扉〉

大川美術館企画展
「松本竣介《街》と昭和モダン展」から